

# 五種混合予防接種説明書

## ※ ジフテリアとは

ジフテリア菌の飛沫感染で起こります。感染は主にのどですが、鼻にも感染します。症状は高熱、のどの痛み、犬吠様のせき、嘔吐などです。発病 2 ～ 3 週間後には菌の出す毒素によって心筋障害や神経麻痺を起こすことがあるため注意が必要です。

## ※ 百日せきとは

百日せき菌の飛沫感染で起こります。普通のかぜのような症状ではじまり、続いてせきがひどくなり、顔を真っ赤にして連続的にせき込むようになります。熱は通常出ません。乳幼児はせきで呼吸ができず、くちびるが青くなったり、けいれんが起きることもあります。肺炎や脳症などの重い合併症を起こしやすく、新生児や乳児では命を落とすこともあります。

## ※ 破傷風とは

土の中にいる破傷風菌が、傷口からヒトの体内に入ることによって感染します。菌が体の中で増えると、菌の出す毒素のために、筋肉の強直性けいれんを起こします。最初は口が開かなくなるなどの症状で気付かれ、やがて全身の強直性けいれんを起こすようになり、治療が遅れると死に至ることもある病気です。

## ※ ポリオ（急性灰白髄炎）とは

ポリオは「小児まひ」と呼ばれ、わが国でも 1960 年代前半までは流行を繰り返していました。予防接種の効果により、わが国では 1980 年を最後に野生株ポリオウイルスによる麻痺患者の発生はなくなりました。現在のポリオ流行国は、パキスタン、アフガニスタンの 2 か国までになっていますが、ポリオに対する警戒は依然世界中で続けられています。このため、ポリオの予防接種をきちんと受けておくことが大切です。

感染してもほとんどの場合は症状が出ず、一生抵抗力が得られます。症状が出る場合、ウイルスが血液を介して脳・脊髄へ感染が広まり、麻痺を起こすことがあります。感染すると、かぜ様の症状があり、発熱、頭痛、嘔吐があらわれます。一部の人には麻痺が残る場合もあり、麻痺症状が進行すると、呼吸困難により死亡することもあります。

## ※ ヒブ（Hib）感染症について

インフルエンザ菌、特に b 型は、中耳炎、副鼻腔炎、気管支炎などの表在性感染症の他、髄膜炎、敗血症、肺炎などの重篤な全身感染症を起こす、乳幼児にとって問題となる病原細菌です。H i b による髄膜炎は、2010 年以前は、5 歳未満に多くみられ、年間約 400 人が発症し、そのうち生後 4 月～1 歳までの乳児が過半数を占めていました。現在は、ワクチンが普及し、重篤な H i b 感染症は激減しました。

インフルエンザ菌は 7 種類に分類されますが、重症例は主に b 型のため、ワクチンとしてこの b 型が使われています。

## ※ 対象年齢・接種方法について

対象年齢	標準的な接種期間		接種回数	接種間隔
				標準的な接種間隔
生後 2 月から 生後 9 0 月（7 歳半） に至るまでの間にある者	1 期 初回	生後 2 月に達した時から生後 7 月 に達するまでの期間	3 回	20 日以上の間隔をおく 20 日から 5 6 日までの間隔をおく
	1 期 追加	第 1 期初回接種（3 回）終了後 6 月から 18 月までの間隔をおく	1 回	1 期初回接種（3 回）終了後、 6 月以上の間隔をおく

## ※ 接種後の副反応について

副反応は、接種部位の紅斑、腫脹（はれ）、硬結（しこり）、全身反応として主なものは発熱が認められています。重い副反応はなくても、機嫌が悪くなったり、腫れが目立つときなどは医師に相談してください。

裏面に続きます ▶▶▶

# 予防接種を受けるときの注意事項

## 予診票

「予診票」は接種する医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。  
接種を受ける方の保護者が責任を持って記入し、正しい情報を医師に伝えてください。

## 予防接種を受けることができない人

- ① 接種当日、明らかに発熱（通常は 37.5℃以上をいいます）をしている人
- ② 重い急性疾患にかかっている人
- ③ 予防接種の接種液に含まれる成分で、アナフィラキシーを起こしたことがある人
- ④ その他、医師が不適当と判断した人

## 接種前に医師（かかりつけ等）とよく相談しなくてはならない人

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気や発育障害などで治療を受けている人
- ② 過去に予防接種で、接種後 2 日以内に発熱、発疹、じんましんなどアレルギーと思われる異常がみられた人
- ③ 過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある人
- ④ 過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある人、及び近親者に先天性免疫不全症の者がいる人
- ⑤ 卵の成分、抗菌薬、安定剤などにアレルギーがあるとされたことがある人

## 接種を受けたあとの一般的注意事項

- ① 予防接種を受けた後 30 分間程度は、医療機関(施設)でお子さんの様子を観察し、医師とすぐに連絡が  
取れるようにしておきましょう。急な副反応が、この間に起こることがまれにあります。
- ② 接種後、生ワクチンでは 4 週間、不活化ワクチンでは 1 週間は副反応の出現に注意しましょう。
- ③ 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすことはやめましょう。
- ④ 当日は、激しい運動は避けましょう。
- ⑤ 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。

## 予防接種による健康被害救済制度

定期の予防接種による重篤な健康被害（障がい等）が発生した場合は、予防接種との因果関係が認定された場合に、健康被害救済制度が適用され、国の定める医療費や医療手当等の給付を受けることができます。給付申請の必要がある場合には、下記までご相談ください。



### お問い合わせ先

山口市保健センター	TEL 083-921-2666
小郡保健福祉センター	TEL 083-973-8147
秋穂保健センター	TEL 083-984-8031
阿知須総合支所内 健康づくり・母子健康サポート阿知須担当	TEL 0836-65-4211
徳地保健センター	TEL 0835-52-1114
阿東保健センター	TEL 083-956-0993